

『図説 わかる土木計画』初版第1刷 正誤表
 本書において下記の誤りがございました。
 深くお詫びいたしますとともに、ここに訂正させていただきます。
 2014年2月 (株)学芸出版社
 ※赤字箇所を追記させていただきました(2024年8月)

| 頁 | 該当行/箇所 | 誤 | 正 |
|-----|-------------|--|--|
| 24 | 図2・7 | (資料:全国都市交通特性調査/平日、全国計) | ▷ 削除 |
| 25 | 8行目 | A社は1割が5000万円 | 6000万円 |
| 35 | 図3・11 | 待ち時間の確立分布 | 確率 |
| 102 | 14行目 | ～という仮設を検定するための～ | 仮説 |
| 105 | 3行目 | 説明変数間で高い相関ある | がある |
| 114 | 18行目 | 表11・2の融合段階2(5、6) | 2、4と(5、6) |
| 120 | 21行目 | 目的関数の両辺にマイナスを掛けます。 | 制約条件 |
| 122 | 6行目 | この切片が最適値 | このときのzが |
| | 例題12-1 | 変数x3 | ▷ 削除 |
| 123 | 11行目 | 可能解が小さくなりますので、最適解も減少 | 最適値 |
| | 13行目 | 限界値が大きいのことは、その説明変数が目的関数に強く影響～ | 制約条件 |
| 124 | 図12・4キャプション | 式12・2に関する～ | 式12・1 |
| | 解答例1行目 | ～端点は移動しないので～ | ～最適解となる端点は |
| 125 | 図12・5 | $x_2 = -3x_1 + 44$ | ▷ 削除 |
| 128 | 式(13・4) | 変数x3 | ▷ 削除 |
| 155 | 15行目 | 代替案A、Bの評価を30年間の | 50年間 |
| | 16行目 | ただし、各代替案の30年後の | 50年後 |
| 156 | 例題15-1 | 16,600(百万円) 以上より、 $NPV_A > NPV_B$ 、 $CBR_A > CBR_B$ なので、代替案Aを選択することが効率的と判断できます。 | $C_B = \dots \approx 14,600$ (百万円) $NPV_B = B_B - C_B = 10,200$ (百万円) $CBR_B = B_B / C_B = 1.70$ 以上より、 $NPV_A > NPV_B$ 、 $CBR_A < CBR_B$ となり、 ・財源制約をあまり考えず、より大きな社会的 便益を生み出すことが必要な場合は代替案A ・財源制約が強く、より効率的な財源の運用が 求められている時には代替案B を選択することが効率的と判断することができます。 |
| | 演習問題15-1表 | 利用者/供給者便益の期間 1～10年目 11～20年目 21～25年目 | 6～15年目 16～25年目 26～30年目 |